

みかんの摘果と夏秋梢伸長抑制に!

ターム[®]

水溶剤



新ラベルデザイン

特長

- ① 温州みかんの摘果作業労力軽減に寄与します。
- ② みかんの樹勢に影響が少ないので、
連年使用できます。
- ③ ハウスみかんの夏秋梢の発芽を抑制することにより、
安定生産、品質の向上に寄与します。

®はアグロ カネショウ(株)の登録商標



アグロ カネショウ株式会社
東京都港区赤坂4-2-19

ターム[®] 水溶剤

物理的・化学的性状：類白色水溶性粉末
 成分：1-ナフタレン酢酸ナトリウム……………22.0%
 界面活性剤等……………78.0%
 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している薬剤)

適用及び使用方法

平成28年10月現在

| 作物名 | 使用目的 | 希釈倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 1-ナフタレン酢酸を含む農薬の総使用回数 |
|------------------------|-------------------------|------------|-----------------------|------------------------|--------------|----------------------|-------------------------------------|
| 温州みかん | 摘果 | 500～1000倍 | 250～500g/10a | 一次生理落果発生期(満開10～20日後) | 1回 | 立木全面散布又は枝別散布 | 4回以内 (生理落果発生期は1回以内、生理落果発生後は3回以内) |
| | | 1000～1500倍 | | 二次生理落果発生期(満開20～40日後) | | | |
| | 夏秋梢伸長抑制 結果母枝の充実、着花促進 | 1000～2000倍 | | 新梢萌芽前 但し、収穫前日まで | 2～3回 | | |
| | | | | 夏秋梢萌芽時及び再萌芽時 但し、収穫前日まで | 2回 | | |
| かんきつ (温州みかんを除く) | 摘果 | 1000～1500倍 | 生理落果発生期(満開10～50日後) | 1回 | 立木全面散布又は枝別散布 | 3回以内 (果実肥大期は2回以内) | |
| | 夏秋梢伸長抑制 | 1000～2000倍 | 新梢萌芽時及び再萌芽時 但し、収穫前日まで | 2～3回 | | | |
| | 果実肥大促進 | 4000～8000倍 | 果実肥大期 但し、収穫前日まで | 2回 | | | |
| | 後期落果防止 | 1000倍 | 果実着色期～収穫予定14日前 | 1～2回 | | | |
| オリーブ (交互結果栽培の非収穫年樹) | 全摘果 | 1500～2000倍 | 非収穫年の満開期 | 1回 | 散布 | 1回 | |

試験成績

①目的：温州みかんの夏秋梢発生抑制

- 試験場所：佐賀県果樹試験場（平成17年）
- 供試品種：宮川早生 13年生
- 処理日：9月1日／9月21日
- 処理方法：動力噴霧機により薬液が葉先から滴る程度散布した
- 調査方法：散布処理後、樹毎に新梢の発生数、新梢長を調査した

| 処理区 | 発芽数(本/樹) | 新梢長(cm) |
|--------------|----------|---------|
| ターム水溶剤 1000倍 | 1.0 | 2.7 |
| ターム水溶剤 2000倍 | 1.3 | 3.1 |
| A剤1000倍 | 2.3 | 5.7 |
| 無処理 | 20.6 | 19.1 |

②目的：温州みかんの摘果

- 試験場所：果樹研究所カンキツ研究部興津（平成16年）
- 供試品種：青島 カラタチ台 33年生
- 処理薬剤：ターム水溶剤 1000倍
- 区制：1区1枝(200～600葉) 3連制(3樹)
- 調査時期：7月中旬

| 処理時期 | 試験区 | 落果率(%) | 葉果比* |
|-------------------|-----|--------|------|
| 満開20日後 (5月24日) | ターム | 99.5 | — |
| | 無処理 | 90.4 | 11.9 |
| 満開30日後 (6月4日) | ターム | 79.9 | 27.5 |
| | 無処理 | 69.2 | 12.2 |
| 満開40日後 (6月14日) | ターム | 96.4 | — |
| | 無処理 | 30.2 | 11.9 |

落果率(%)：(処理時の果数－調査時の果数)／処理時の果数×100

*：調査時に着果数が0の区が含まれている場合は「—」とした

△効果・薬害等の注意

- (1) 本剤の所要量を所定量の水に希釈し、よくかき混ぜてから散布してください。調製した薬液はその日の内に使用してください。
- (2) 本剤は植物ホルモン剤であり、散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用は避けてください。また、アルカリ性農薬を本剤散布前後に近接散布することは避けてください。なお、マシン油乳剤を近接散布すると旧葉が落葉することがあるので注意してください。
- (3) 散布直後の降雨は効果が減ずる原因となるので、天候を見極めてから散布してください。
- (4) 過度の乾燥、着果負担などによって極端に樹勢の低下した樹では旧葉の落葉を助長するので本剤の使用を避けてください。
- (5) 重複散布は避けてください。
- (6) 温州みかんに使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ① 摘果を目的に本剤を使用する場合は、一次生理落果発生期(満開10～20日後)または二次生理落果発生期(満開20～40日後)で合計1回とし、2回使用しないでください。
 - ② 全摘果したい場合は樹全体に、部分的に全摘果したい場合は摘果したい部分のみに散布してください。また、摘果効果を高めるために、気温が高くなることが予想される日に散布してください。
 - ③ 間引き摘果の目的で使用する場合は、薬液が葉先から滴り落ちない程度にむらなく、樹冠上部にたっぷり、下部にうすく散布してください。本剤による摘果が終了した後に仕上げ摘果を行い、品質の均一化や樹勢の維持に努めてください。なお、高温下(30℃以上)での散布または散布後に高温が2～3日続くと過摘果になる場合がありますので、気象条件を見極めてから散布してください。また、本剤散布の4～5日前または散布後4～5日の間にマシン油乳剤を近接散布すると過摘果になるので避けてください。
 - ④ 結果母枝の充実、着花促進の目的で使用する場合は、施設栽培以外では使用しないでください。
- (7) かんきつ(温州みかんを除く)に使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ① 夏秋梢伸長抑制を目的に使用する場合、果実糖度の低下や果皮色が劣る場合がありますので、留意して使用してください。
 - ② 果実肥大促進を目的に使用する場合、摘果直後の果実肥大期に使用してください。
 - ③ 下記に記載した使用目的と作物の組み合わせ以外に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
 - 「摘果：天草、伊予柑、清見、せとか、はるみ、湘南ゴールド、ボンカン、不知火、たまみ」
 - 「夏秋梢伸長抑制：はるみ、ボンカン、天草、不知火」
 - 「果実肥大促進：不知火」
 - 「後期落果防止：河内晩柑」
- (8) オリーブに使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ① 交互結果栽培とは、意図的に全摘果を行い、翌年の着花・着果を促進させるものであり、収穫は隔年になります。本剤は非収穫年の全摘果の目的で使用してください。
 - ② 本剤処理後の残存果実及び結果後落果した果実は、適切に廃棄処理し、食用又は搾油に供しないでください。
 - ③ 本剤の処理により新梢が湾曲することがありますが、その後の生育への影響は認められていません。
- (9) 極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにしてください。
- (10) 使用後の散布器具等は十分洗浄してください。
- (11) 本剤は植物ホルモン剤であるので、使用に際して使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

△安全使用上の注意

- (1) 誤食などのないように注意してください。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- (3) 散布の際は農薬用マスクなどを着用してください。

保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所

【効果的な使用方法】

- ① 全摘果目的に使用する場合、第一次生理落果の直前～終期までの時期を逸さないよう散布してください。枝別に間引きしたい場合は目的とする枝に散布してください。
- ② 間引き摘果目的に使用する場合、第二次生理落果の発生時期に散布してください。
- ③ 新梢抑制目的に使用する場合、新梢の萌芽前に散布してください。

●ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。